

第 3 1 期

決 算 報 告 書

令 和 3 年 10 月 1 日 から

令 和 4 年 9 月 30 日 まで

株 式 会 社 北 前 館

(法人番号:1140001056167)

損益計算書

令和 3年10月 1日から
令和 4年 9月30日まで

商号 株式会社 北前館

(単位：円)

科 目	金 額		
I 売上高	47,253,024	47,253,024	47,253,024
II 売上原価	5,795,467	458,379 5,795,467	5,831,694
III 販売費及び一般管理費		6,253,846 422,152	41,461,867 40,537
IV 営業外収益		402 400 1,449,915	1,450,717
V 営業外費用		623,318	623,318
VI 経常利益			786,862
VII 特別利益		0	0
VIII 特別損失		0	0
税引前当期純利益			786,862
法人税、住民税及び事業税		211,000	211,000
当期純利益			575,862

販売費及び一般管理費の計算内訳

令和 3年10月 1日から
令和 4年 9月30日まで

(単位：円)

科 目	金 額
販売員給与	12,971,943
販売員雑給	1,445,231
広告宣伝費	275,415
発送配達費	9,636
役員報酬	840,000
法定福利費	1,372,492
厚生費	137,362
減価償却費	1,071,678
賃借料	414,500
修繕費	255,425
事務用品費	144,022
通信費	1,040,754
水道光熱費	13,606,973
租税公課	1,874,012
会費	192,910
接待費	70,330
保険料	428,639
備品消耗品費	860,159
支払手数料	2,421,946
車両費	141,650
り倒ス債	418,948
貸雑費	2,700
合 計	41,461,867

棚卸資産の計算内訳

令和 4年 9月30日現在

(単位：円)

科 目	金 額
商 品	422,152
貯 蔵 品	529,485
合 計	951,637

株主資本等変動計算書

令和3年10月1日から令和4年9月30日まで

(単位：円)

	株主資本							株主資本合計	評価・ 換算差額等	新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計				
		資本準備金	その他 資本剰余金	利益準備金	その他 利益剰余金						
当期首残高	25,000,000	0	0	0	800,000	-46,584,869	0	-20,784,869	0	-20,784,869	
当期変動額											
当期純利益						575,862		575,862		575,862	
当期変動額合計	0	0	0	0	0	575,862	0	575,862	0	575,862	
当期末残高	25,000,000	0	0	0	800,000	-46,009,007	0	-20,209,007	0	-20,209,007	

■ その他資本剰余金及びその他利益剰余金の内訳書

(単位：円)

	その他資本剰余金の内訳			その他利益剰余金の内訳					
	資本金及び資本準備金減少差益	自己株式処分差益	その他資本剰余金合計	別途積立金				繰越利益剰余金	その他利益剰余金合計
当期首残高	0	0	0	0				-46,584,869	-46,584,869
当期変動額									
当期純利益								575,862	575,862
当期変動額合計	0	0	0	0				575,862	575,862
当期末残高	0	0	0	0				-46,009,007	-46,009,007

個別注記表

令和 3年10月 1日から

令和 4年 9月30日まで

I. この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。

II. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法を採用しております。

2. 固定資産の減価償却方法

(1)有形固定資産

定額法又は旧定額法を採用しております。

なお、一括償却資産については、3年均等償却を採用しております。

(2)無形固定資産

定額法又は旧定額法を採用しております。

(3)リース資産

定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1)貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、法人税法に規定する法定繰入率により計算した回収不能見込額を計上しております。

4. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式を採用しております。

III. 貸借対照表等に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額 18,324,603円

IV. 株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式総数 500株

V. 一株当たり情報に関する注記

1. 一株当たり純資産額は、-40,418.01円であります。

2. 一株当たり当期純利益は、1,151.72円であります。

以 上

株式会社北前館第31期事業報告

1 事業の概要と成果

新型コロナウイルス感染症の影響で観光客が依然として回復しない中、ロシアによるウクライナ侵攻を主因とする世界情勢の激変で原油等が高騰したこと、さらに高压電力需給契約の変更により、水道光熱費の中でも電気料金が大きく増加し、対前年比2,340千円増の6,744千円の負担が必要になり、収益に大きな影響を受けました。

幸いにして、天候には恵まれて早い梅雨明けとなり、その後戻り梅雨がありました。が、台風の直接的な影響も少なく夏季の売上は大きく伸びました。

また、30周年記念事業として、全ての利用者を対象に10月3日から11月30日までの約2カ月間「入浴料金を半額」にする取り組みを実施し、多くの方々に温泉を楽しんでいただくことが出来ました。この期間中の入浴者数は前期対比136.1%でした。

温泉部門では、「ポイントカード」や月3回に増やした「風呂の日」が大変好評であり、コロナ対策として夏季の繁忙期にはサウナの使用を中止し、安全対策として入浴者数を制限させていただきましたが、売上額は17,909千円、前期対比134.3%となりました。

特産品部門も温泉部門に連動して売上額8,386千円、前期対比115.4%となりました。

ジオカヌー部門では海況悪化による中止など安全を最優先した事により、売上額449千円、前期対比22.6%となりました。

駐車場部門は期間を7月当初から8月末まで長期間設定した事と好天であったこともあり売上額9,511千円、前期対比140.8%と大きく伸びました。

今期の総売上額は47,253千円となりましたので、前期対比は117.0%で経常利益は786千円となり、税引き後当期純利益は575千円となりました。

今後とも更なる経営改善及び利便性向上に努めて参りますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、第31期の営業報告とさせていただきます。

(1) 部門別の売上高

(単位：千円)

部 門	温泉浴場	特産品店	受託料	駐車整理料	ジオカヌー	その他	合計
売上高	17,909	8,386	9,238	9,511	449	1,760	47,253

(2) 営業成績および財産状況の推移

区 分	第26期 平成29年9月	第27期 平成30年9月	第28期 令和元年9月	第29期 令和2年9月	第30期 令和3年9月	第31期 令和4年9月
売上高 (単位：千円)	90,634	65,996	53,215	44,320	40,370	47,253
経常利益 (単位：千円)	△ 2,616	158	4,792	301	△ 2,433	786
当期利益 (単位：千円)	△ 2,815	△ 3,293	4,586	3,390	△ 2,642	575
1株当り当期利益 (単位：円)	△ 5,630	△ 6,587	9,172	6,780	△ 5,285	1,151
総資産 (単位：千円)	23,220	32,539	31,468	72,836	62,773	62,022
純資産 (単位：千円)	△ 22,824	△ 26,118	△ 21,532	△ 18,142	△ 20,784	△ 20,209

2 会社の概況 (令和4年9月30日現在)

(1) 業務状況

① 受託業務

施設名	業 務 内 容
竹野北前館	豊岡市立竹野北前館の管理・運営（かぜまちミュージアム、ナビステーション、海洋学習室、交流ホール等）、諸団体事務局
温泉供給施設	泉源管理、供給業務一式（自動車附带施設）

② 直営業務

施設名	業 務 内 容
竹野北前館	温泉浴場、特産品店、駐車場、ジオガイド、ジオカヌー等

(2) 当社の現状

① 資本金の推移

(単位：千円)

区 分	当 期 末	前 期 末
資 本 金	25,000	25,000

(注) 平成3年10月1日発行株式数 500株 発行価格 (1株当り) 50,000円

② 株式の状況

イ 株式数 (発行済株式の総数)	500 株
ロ 当期末株主数	129 名

(3) 従業員の状況

(単位：人)

区 分	当 期 末	前 期 末	増 減
男 子	5	5	0
女 子	1	1	0
合 計	6	6	0

(4) 取締役及び監査役

① 取締役

役 職 名	氏 名
代 表 取 締 役	太田垣 健 作
取 締 役	宮 嶋 俊 夫
取 締 役	岩 井 美 晴
取 締 役	濱 松 淳
取 締 役	藤 原 誠
取 締 役	福 井 正 幸

② 監査役

監 査 役	田 中 律 也
監 査 役	瀧 下 貴 也

監査報告書

1 監査対象期間（第 31 期）

自 令和 3 年 10 月 1 日

至 令和 4 年 9 月 30 日

2 監査概要

私たち監査役は、株式会社北前館の第 31 期の営業年度における経営状況について、令和 4 年 10 月 17 日代表取締役太田垣健作より提出された貸借対照表、損益計算書及び収支証拠書類並びにこれらに付帯する関係補助簿について照合精査いたしました。なお、この度の監査において監査場所は株式会社北前館、監査立会人は、代表取締役太田垣健作でした。

3 監査結果

- (1) 会計全般にわたり、関係帳簿と照合精査した結果、会計帳簿の記載金額と一致し財産目録、貸借対照表及び損益計算書は、株式会社北前館の損益の状況を正しく表示していると認めます。
- (2) 取締役の職務遂行に関する不正行為又は、定款に違反する事実はないと認めます。

4 監査意見書

私たち監査役は、毎月の役員会に出席して取締役の経営検討執行状況を確認するほか、日頃より従業員の勤務状況等も注視してきました。

今期も新型コロナウイルス感染症対策として、温泉部門においては、サウナの一時休止や入浴者の人数制限を余儀なくされるなど、前期に引き続き、コロナ禍での厳しい経営となりました。

更に電気料金や燃料費の高騰は収益に大きな影響を及ぼし、2期連続での赤字も懸念していましたが、30周年記念事業や温泉入浴券の販売促進を実施される中、トップシーズンである夏季については好天に恵まれ、多くの来館者を迎えることができました。この結果、温泉、土産、駐車場部門の売上げが大きく伸び、総売上額は前期の 117%に達するとともに、経常利益も一期で黒字に転じたことは、努力の賜物であると認識しています。

しかしながら、今後もコロナ禍での経営は避けられず、厳しい状況は続くものと考えられます。今後とも、株主や地域の皆様の理解や協力を受けながら、北前館が竹野地域の交流人の核施設となるべく、取締役及び従業員全員が一丸となり、さらに努力されることを切に望みます。

令和 4 年 10 月 17 日

監査役 田 中 律 也 

監査役 瀧 下 貴 也 

株式会社 北 前 館

代表取締役 太田垣 健 作 殿